

# J A 自己改革推進レポートについて

令和 2 年 2 月 2 6 日  
J A 鳥 取 県 中 央 会

## 1. 「J A の自己改革に関する組合員調査」について

- (1) J A 全中が実施している「J A の自己改革に関する組合員調査」は、令和元年 12 月 末で終了した。
- (2) 鳥取県の取り組み状況の速報値は、回収ベースで県下 59.5%、全国は約 6 割台と第 1 次調査の進捗率：約 70%を若干下回る見込みである。
- (3) なお、調査の最終的なとりまとめ結果は、令和元年秋に発生した台風被害の影響で調査が遅れている J A があることから、公表時期については当初(令和 2 年 5 月以降)からずれ込む予定である。

### 【県下進捗状況(回収ベース)の推移】

J A 名	第 1 次調査中間 (H31. 2)	第 1 次調査 (R 元. 5)	第 2 次調査 (R 元. 12)
いなば	27.0%	39.5%	63.8%
中 央	33.7%	51.1%	67.2%
西 部	21.0%	34.8%	49.8%
合 計	26.8%	41.3%	59.5%

## 2. J A 自己改革実践状況

### (1) J A 鳥取いなばの取り組み

#### ① 農機購入者安全研修会

J A 鳥取いなば鳥取地区農機センターは 1 月 21 日、農機購入者安全研修会を鳥取市の J A 本店で開いた。

研修会では、農機購入者や J A 職員ら約 60 人が参加。県内で発生した事故事例を踏まえ、トラクターやコンバインなどの安全作業の注意点を伝え、日常点検・安全確認の徹底が事故防止につながると説明した。



## ② 美和小学校原木椎茸植菌体験

J A鳥取いなばせんだい支店は1月22日、原木シイタケの植菌体験を鳥取市立美和小学校で開いた。

この体験は、食農教育の一環で、地域の農産物である原木シイタケ生産への興味を深めてもらうために実施している。植菌したホダ木は、同学校敷地内で管理し、原木シイタケの成長を観察して、今年の12月頃には収穫する予定。



## ③ 国府東小学校調理体験

J A鳥取いなば国府支店は1月16日、鳥取市の国府東小学校で地元野菜を使った調理体験を開いた。

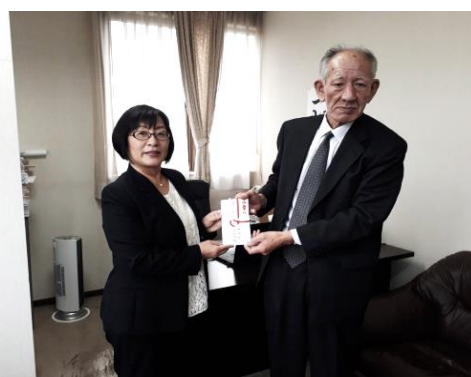
地域密着の支店独自の取り組み「支店行動計画」の一環で、同校「のびっこ児童クラブ」の児童を対象に、地元特産「山の芋」の栽培体験を行い、食農教育に取り組んだ。年間を通して、植え付け、支柱にツルを誘引するなどの管理作業、収穫のほか、同支店J Aまつりで試食販売も行った。調理体験では、山の芋2キ。を使いお好み焼きを作り焼き加減を確認し、児童がフライ返しで上手に返すと歓声と拍手が起こった。



## ④ わかばへ収益金寄付

J A鳥取いなば女性会鳥取支部は1月27日、昨年末に実施したチャリティー餅つきで得た餅販売の収益金5万6,812円を、鳥取市の同J Aグループ福祉専門会社、わかばに寄付した。

この取り組みは、J Aとっとり女性協議会が推進する地域貢献活動「米ひと握り運動」の一環で行っている。同支部は毎年、年末に青壮年部員らと協力して餅つきを行い、餅やぜんざいを販売し、収益金を福祉施設に寄贈している。



## (2) JA鳥取中央の取り組み

### ① Aコープ店舗が(株)Aコープ西日本へ経営移管!

近年、量販店やコンビニの出店により地域内での競争が激化しており、Aコープ店舗の経営基盤強化を図るため、2月1日にAコープ4店舗の経営をJAから株式会社Aコープ西日本へ移管した。Aコープ西日本は島根、岡山、広島、愛媛各県をエリアとしてAコープ64店舗やコンビニ等の経営実績を有しており、広域での一元仕入れやマーケティング分析、共通システム運用等による管理コストの低減を進め、安定した経営に努めている。サービス向上の一つとして、新ポイントカード「エピコカード」によるポイント贈呈、さらにエピコマネー（電子マネー）によるお買い上げでプラス1ポイント贈呈する。



### ② 琴浦ブロッコリー生産部が販売金額4億円を達成!

2月4日JA鳥取中央琴浦ブロッコリー生産部は、設立以来初の目標金額4億円を突破した。設立時は80人が58haで栽培を開始、現在は72人で140haを栽培するなど著しく面積を伸ばしてきた。県の補助事業を活用し、氷詰め出荷に取り組むための製氷機の導入、各農家への予冷庫の導入など、機械化を進め品質の維持と作業効率を上げることで、農家一人ひとりの面積拡大につなげてきた。寺岡新部長は「若い力で積極的に市場や消費者にPRしていき、美味しいブロッコリーを届け、令和2年度の目標達成に向かって取り組んでいきたい」と意気込みを話す。



### ③ JA鳥取中央の「経営理念の実現をめざす職員像」を日々の業務で行動化!

JA鳥取中央は多様化する社会環境のなか、まわりから信頼され農業を軸にした「農協らしさ」を強みとして発揮できる職員を育てるため、新たな人材育成に取り組む。一人ひとりの日々の行動化に向け、3か月毎に各職場で具体的取組事項を定め全員が実行する。各職場での朝礼で新たに「経営理念」を唱和することに加え、個人での取り組み内容や実際の行動エピソード等を発表する。まず、第1四半期(2月~4月)は本所内で試行実施し、4月以降全体で取り組む。





### (3) JA鳥取西部の取り組み

#### ① JA鳥取西部女性会支部が総会を開催

JA鳥取西部女性会成実支部と日野支部が女性会総会を開催した。

成実支部では2月15日、中国電力(株)鳥取支所が環境にやさしい省エネを講演。アロマハンドクリーム作りも体験した。

日野支部では2月16日、日野農業改良普及所職員による野菜作りの基礎講座を行った。



### (4) 鳥取県農協青壮年連盟との意見交換会を開催（JA全農とっとり）

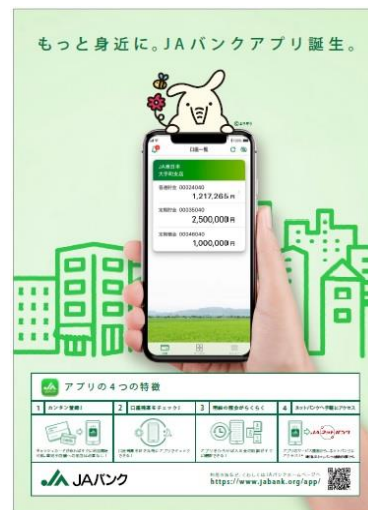
令和2年1月14日、鳥取県農協青壮年連盟との意見交換会を行った。今年で2年目となる意見交換会には、青壮年連盟の委員6名と事務局の参加のもと、全農の事業紹介や情報提供などを行った。若手生産者を代表した意見やJA事業に対する質問・要望等、活発な意見が交わされた。



### (5) JAバンクアプリ誕生（JA鳥取信連）

令和元年12月19日、『JAバンクアプリ』がリリースされた。JAバンクアプリは、インターネットバンキングと異なりスマホとキャッシュカードがあれば口座開設と同時に利用が可能であり、利用者を選ばない簡易な操作性を備えている。

また、アプリから他のJAバンクサービスへの導線も確保していること、他のサービスと比べ参照可能な口座種類や照会期間に優位性があることから、非対面サービスの入り口として幅広い利用者が利用できる。その他、JAネットバンクへの申し込み、口座開設や住所変更手続（郵送で完結）、各種サービス内容（年金、JA共済等）が容易に確認できる。



## (6) 「LA管理者特別研修会」の開催について（JA共済連鳥取）

令和2年1月15日、鳥取県下の各JAのLA管理者40名が一堂に会し、株式会社UBF代表の東講師による「LA管理者特別研修会」を開催した。今回は特別研修として、「ひと保障をLAに定着するために再考したいこと」というテーマのもと、商品提案ではなく、情報提供する知識を整理することの重要性をメインに組合員・利用者の満足度向上につながる研修を行った。



### ■研修概要

ひと保障ベーシック※を軸に「3Q訪問活動から推進につなげていく方法」や「社会情勢（新聞記事等）からお客様に情報提供をすることの重要性」、「社会保障制度を絡めた推進話法」について研修。

※「ひと保障ベーシック」とは「ひと保障」推進における訪問準備から活動管理までの基本的な方法・流れ（具体的行動）

### ■総括

研修の随所にグループ討議の時間を設け、他JA・他支所（店）の共済課長同士での意見交換が活発にされるなど、活気のある研修会となった。次年度以降もより「組合員・利用者の満足度向上」につながる研修会の実施に向け、JAと連合会が一体となり取り組んでいく。

以上